

外来化学療法レジメン

- ・当院の外来化学療法室で実施している内服処方薬を含むレジメンの一覧です。
- ・保険薬局での処方チェックおよび服薬指導のご参考にしてください。
- ・掲載のスケジュールや薬品名は標準レジメンであり、患者様の状態によって変更になっている場合があります。
- ・患者毎のレジメンの内容は担当薬剤師がお薬手帳に貼付しています。

改定日 2021/3 がん化学療法チーム

●乳がん

FEC100 療法 / 術前・術後補助 切除不能進行・再発

催吐リスク：高度

一般名	商品名	投与量	投与経路	投与日	1 コースの期間	継続期間
シクロfosファミド	エンドキサン注	500 mg/m ²	点滴静注	Day 1	3 週毎	4 コース
塩酸エピルビシン	エピルビシン注	100 mg/m ²	点滴静注	Day 1		
フルオロウラシル	フルオロウラシル注	500 mg/m ²	点滴静注	Day 1		
【特に注意したい有害事象】 骨髄抑制、心毒性、悪心・嘔吐、脱毛、口内炎、便秘 Day1 にアプレピタント 125mg を服用、Day2.3 にアプレピタント 80mg を午前中に服用 Day2.3 にデカドロン（4mg）を朝食後 1 錠・昼食後 1 錠で服用 発熱時：レボフロキサシン 500mg /回 5 日、カロナール（200mg）6 錠 3× 5 日						

□ AC療法 / 術前・術後補助 切除不能進行・再発

催吐リスク：高度

一般名	商品名	投与量	投与経路	投与日	1コースの期間	継続期間
シクロフォスファミド	エンドキサン注	600 mg/m ²	点滴静注	Day 1	3週毎	4コース 最大6コース
ドキシソルビシン	ドキシソルビシン注	60 mg/m ²	点滴静注	Day 1		
<p>【特に注意したい有害事象】 骨髄抑制、心毒性、悪心・嘔吐、脱毛、口内炎、発熱、出血性膀胱炎、便秘</p> <p>Day1 にアプレピタント 125mg を服用、Day2.3 にアプレピタント 80mg を午前中に服用</p> <p>Day4 又は 5 にジールスタを投与</p> <p>発熱時：レボフロキサシン 500mg /回 5日、カロナール (200mg) 6錠 3× 5日</p>						

□ カペシタビン療法 / 切除不能進行・再発

催吐リスク：軽度

一般名	商品名	投与量	投与経路	投与日	1コースの期間	継続期間
カペシタビン	カペシタビン錠	A法:825mg/m ² B法:1250 mg/m ²	経口	2回に分けて朝夕食後 A法 3週間服用 1週間休薬 B法 2週間服用 1週間休薬	A法：4週毎 B法：3週毎	PDまで
<p>【特に注意したい有害事象】 手足症候群、腎障害、骨髄抑制、心障害、口内炎、肝障害、黄疸</p> <p>ヒルドイドソフトなどの保湿クリームの 5回以上/Day の頻回投与</p> <p>【相互作用】 ワルファリンカリウム、フェニトイン</p> <p>【併用禁忌】 テガフル・ギメラシル・オテラシルカリウム</p> <p>腎機能を考慮した投与量の調整が必要</p>						

□ S-1 療法 / 切除不能進行・再発

催吐リスク：軽度

一般名	商品名	投与量	投与経路	投与日	1 コースの期間	継続期間
テガフル・ギメラシル・オテラシルカリウム	エスワンタイホウ配合 OD 錠	80 mg/m ²	経口	2 回に分けて朝夕食後 4 週間服用 2 週間休薬	6 週毎	PD まで
【特に注意したい有害事象】 骨髄抑制、肝機能障害、食欲不振、下痢、口内炎、色素沈着、流涙						
【相互作用】 ワルファリンカリウム、フェニトイン						
【併用禁忌】 フッ化ピリミジン系抗悪性腫瘍薬やフッ化ピリミジン系抗真菌薬の前治療がないことを確認 腎機能を考慮した投与量の調整が必要						

□ 乳癌経口抗ホルモン剤療法 / 術後補助・切除不能進行・再発

催吐リスク：軽度

一般名	商品名	投与量	投与経路	投与日	1 コースの期間	継続期間
クエン酸タモキシフェン	タモキシフェン錠	20 mg/day	経口	1～2 回に分けて食後 連日服用 最大 40mg/day まで	—	術後 5 年 切除不能・再発 PD まで
【特に注意したい有害事象】 ほてり、悪心・嘔吐、無月経、月経異常、膣分泌物、体重増加、無気力						
クエン酸トレミフェン	フェアストン錠 トレミフェン錠	40 mg/day 他治療無効例： 120 mg/day	経口	1 日 1 回 連日服用	—	PD まで
【特に注意したい有害事象】 ほてり、悪心・嘔吐、無月経、月経異常、膣分泌物、体重増加、無気力						
アナストロゾール	アナストロゾール錠	1 mg/day	経口	1 日 1 回 連日服用	—	術後 5～10 年 切除不能・再発 PD まで
【特に注意したい有害事象】 ほてり、悪心、血栓症、肩こり、関節痛、頭痛、倦怠感、骨粗鬆症						

□ TC 療法 / 術後補助・切除不能進行・再発

催吐リスク：中等度

一般名	商品名	投与量	投与経路	投与日	1 コースの期間	継続期間
ドセタキセル	ドセタキセル注	75 mg/m ²	点滴静注	Day 1	3 週毎	4 コース
シクロフォスファミド	エンドキサン注	600 mg/m ²	点滴静注	Day 1		
【特に注意したい有害事象】 骨髄抑制、悪心・嘔吐、脱毛、皮疹、疲労、浮腫 Day2.3 にデカドロン（4mg）を朝食後 1 錠・昼食後 1 錠で服用 Day4 又は 5 にジールスタを投与 発熱時：レボフロキサシン 500mg/回 5 日、カロナール（200mg）6 錠 3× 5 日						

□ DOC+3HER+3Per 療法 / 術前・術後補助 切除不能進行

吐リスク：軽度

一般名	商品名	投与量	投与経路	投与日	1 コースの期間	継続期間
ドセタキセル	ドセタキセル注	75 mg/m ²	点滴静注	Day 1	3 週毎	術前・術後 計 1 年 切除不能・再発 PD まで
トラスツズマブ	トラスツズマブ BS 注	初回 8mg/kg 2 回目以降 6mg/kg	点滴静注	Day 1		
ペルツズマブ	パージェタ注	初回 840mg/回 2 回目以降 420mg/回	点滴静注	Day 1		
【特に注意したい有害事象】 骨髄抑制、心毒性、下痢、悪心・嘔吐、脱毛 下痢時：ロペラミド						

□ Weekly-PTX+3HER+3Per 療法 / 術前・術後補助 切除不能進行

催吐リスク：軽度

一般名	商品名	投与量	投与経路	投与日	1 コースの期間	継続期間
パクリタキセル	パクリタキセル注	80 mg/m ²	点滴静注	Day 1、8、15	3 週毎	術前・術後 計 1 年 切除不能・再発 PD まで
トラスツズマブ	トラスツズマブ BS 注	初回 8mg/kg 2 回目以降 6mg/kg	点滴静注	Day 1		
ペルツズマブ	パージェタ注	初回 840mg/回 2 回目以降 420mg/回	点滴静注	Day 1		
【特に注意したい有害事象】 骨髄抑制、心毒性、下痢、悪心・嘔吐、脱毛 下痢時：ロペラミド						

□ EXE+エベロリムス療法 / 切除不能進行・再発

催吐リスク：軽度

一般名	商品名	投与量	投与経路		1 コースの期間	継続期間
エキセメスタン	アロマシン錠	25mg/day	経口	1日1回 連日服用	—	PD まで
エベロリムス	アフィニトール錠	10mg/day	経口	1日1回 連日服用		
【特に注意したい有害事象】 口内炎、間質性肺疾患、腎障害、高血糖、骨髄抑制、血栓症 口内炎予防：アズレン含嗽用散 1包/回 最低1日3回 できれば1日8回（約2時間毎） 【相互作用】 P-糖蛋白阻害薬・誘導薬との併用に注意 CYP3A4 を阻害する薬剤・食品や CYP3A4 を誘導する薬剤・食品に注意						

□ パルボシクリブ+ホルモン療法 / 切除不能進行・再発

催吐リスク：軽度

一般名	商品名	投与量	投与経路		1 コースの期間	継続期間
パルボシクリブ	イブランス錠	125mg/body	経口	3週間服用 1週間休薬	4週毎	PD まで
①レトロゾール	フェマーラ錠	2.5mg	経口	1日1回 連日服用	—	
②フルベストラント	フェソロデックス	500mg/ body	筋注	初回 Day1、Day15、Day28、その後 4週毎		
パルボシクリブ+①又は②を併用する 【特に注意したい有害事象】 骨髄抑制、脱毛、口内炎、悪心、下痢、疲労、肝機能障害、血栓症 【相互作用】 CYP3A4 を阻害する薬剤・食品や CYP3A4 を誘導する薬剤・食品に注意						

□ アベマシクリブ+内分泌療法 / 切除不能進行・再発

催吐リスク：軽度

一般名	商品名	投与量	投与経路	投与日	1 コースの期間	継続期間
アベマシクリブ	ベージニオ錠	300mg/Body (1回 150mg)	経口	2回に分けて連日服用	—	PD まで
①フルベストラント	フェソロデックス	500mg/Body	筋注	初回 Day1、Day15、Day28、その後 4週毎		
②レトロゾール	レトロゾール錠	2.5mg	経口	1日1回 連日服用	—	
③アナストロゾール	アナストロゾール錠	1mg	経口	1日1回 連日服用	—	
アベマシクリブ+①又は②又は③を併用する 【特に注意したい有害事象】 下痢、骨髄抑制、脱毛、悪心、疲労、肝機能障害、血栓症 下痢時：ロペラミド 【相互作用】 CYP3A4 を阻害する薬剤・食品や CYP3A4 を誘導する薬剤・食品に注意						

□ リムパーザ療法 / 切除不能進行・再発

催吐リスク：軽度

一般名	商品名	投与量	投与経路	投与日	1 コースの期間	継続期間
オラパリブ	リムパーザ錠	600mg/Body (1回 300mg)	経口	2回に分けて連日服用 空腹時投与	—	PD まで
【特に注意したい有害事象】 悪心・嘔吐、下痢、骨髄抑制、疲労、頭痛						
嘔気時：ノバミン 5mg or メトクロプラミド 5mg						
【相互作用】 CYP3A4 を阻害する薬剤・食品や CYP3A4 を誘導する薬剤・食品に注意						